

白山市各種団体女性連絡協議会との意見交換会で寄せられた意見（令和6年9月協議）

No	白山市各種団体女性協議会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	地震やハザードマップ、海拔の案内看板、避難所の種類などをもっとしっかりと周知する方法を検討すると共に、掲示物も見やすいものにしたほうがよいのでは。	ホームページの掲載のみならず、防災訓練や防災講座等で周知をしていきたいと思います。新しく作るハザードマップにつきましても、市民の皆様が避難所等の位置を確認しやすくなるよう、町名、公共施設名等を表示いたしますとともに、地図の縮尺等、広域的な避難経路がわかるように調整を行い作成し、周知・案内をしていきたいと思います。
2	家族同様のペットと共に過ごせる避難場所が欲しい。行政の答弁には市内全ての避難所にペット飼育スペースを設ける計画としている。しかし、軒先や屋外であっても、ペットアレルギーの人もあるので、一緒にはできない。 今後、ビジネス学校と協定を結んで対応していくようだが、すみ分けして避難所運営ができないのか。	横江町にキャンパスがある学校法人国際ビジネス学院と災害時におけるペット同伴避難所に関する協定の締結を行うこととしております。この協定により、大規模災害時には、犬や猫の飼い主と一緒に避難できるスペースを国際ビジネス学院に提供していただけることとなりますので、市民の皆様に周知いたしますとともに、活用いただきたいと思います。 今後国際ビジネス学院との協定の他に、市内のホテル・旅館等のうち、ペット同伴同室避難・宿泊できる施設をリスト化し、迅速に対応していく体制を整えてまいりたいと考えております
3	耐震改修のための耐震診断について改善しているようだが、簡易耐震診断と精密診断のどちらも選べるようにしてはどうか。 それぞれの家庭での状況が違うので、一概に制度を変更しなくてもよいと思う。被災者が選択できるようにしていくべきだ。	現在の耐震事業については、平成19年から耐震改修促進計画に基づき行っています。耐震改修工事を行うには、精密診断を行う必要があり、当初、耐震診断は精密診断のみでスタートしました。精密診断は柱や壁を全て現地調査し、ケースによっては部分破壊調査が必要な場合もあり、経費や時間の負担が大きく、なかなか実績が上がらない状況でした。 そこで、平成26年度に制度変更し、図

		面があれば基本的に無料で行える簡易診断制度としました。簡易診断とはいえ、本市の技術職員が調査し、県建築士事務所協会の耐震改修に関する講習を受講された建築士が診断いたします。経費や時間の負担が軽減されることで、診断を受けるハードルが下がり、結果的には耐震改修工事に至る件数が多くなっていることから、現行の診断制度を継続していきたいと考えます。
4	避難所だけに限らず、施設整備に関してスフィア基準とまではいかないまでも、女性に配慮したトイレ数にしてはいかがか。 どの施設も常に女性トイレが行列になっているので、基準をつくってはどうか。	避難所開設のトイレ設置につきましては、実際に避難した方の男女比を考慮し、設置する計画としております。 公共施設のトイレ設置につきましては、施設用途等により、利用者の男女割りを考慮して設置しております。

美川支所区長会連絡会との議会報告会で寄せられた意見（令和6年9月協議）

No	美川支所区長会連絡会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	放課後児童クラブにおいて、何かあったときに屋外の非常用階段から避難することが大事。平米数によって必要性がないとなっているが、児童の生命を守るため、屋外階段の設置を望む。	放課後児童クラブの屋外階段、非常用階段の設置については、市内全43クラブの中で2階を利用しているクラブが16クラブあり、そのうち8クラブに2方向避難ができるよう整備をしております。これは建築基準法施行令第121条の規定に基づき、2階の床面積が100平方メートル以上の児童福祉施設には、2つ目の避難経路が義務づけられていることから、非常用階段を整備しているものであります。残りの8クラブにつきましては、2階の床面積が100平方メートル未満でありますことや、既存の階段からの避難ができることなどから、非常用階段を設置しておりません。 市では、児童の安全を確保することは大切なことであると考え、必要な施設整備を行っており、また、クラブを運営する法人では、児童や職員に対して、定期的に防災訓練や避難誘導などの安全教育を行い、児童の安全確保に努めております。
2	防災に関して、計画的に修理や交換をする場合は補助対象になるが、突然小型消防ポンプが壊れてしまった場合でもすぐに直してほしい。	町内会が所有する小型ポンプの購入修繕は、消防施設設置事業補助金の対象となっており、原則は毎年9月に町内会から事業要望を提出してもらい、それを基に次年度の予算要求を行っております。 しかしながら、小型ポンプや消防ホースなど、防災の面で緊急を要すると判断される場合には、事前の要望がない場合であっても、その都度町内から相談を受け、予算の範囲内で補助事業を実施しております。 また、要求段階では予定していた町会について、精査した段階で取りやめたり事業規模が縮小する町会がございますので、そういった予算の範囲内で対処しておりますので、よろしくお

		願いたします。
3	白山手取川ジオパークの景観、環境保全のために、メガソーラーなど規制すべきではないか。ジオパークの環境を守ってほしい。	メガソーラーについては、広大な土地を利用することによる景観への影響、山の斜面を伐採することによる土砂災害の発生など、様々な問題が指摘されていますが、現在のところ本市においてメガソーラーの計画も聞いておりません。 白山手取川ジオパークとしての規制はできませんが、ジオパークのフィールドである豊かな自然と、そこから享受する多様な恵みを守り、未来につなげていくために、引き続き環境保全に関する勉強会や啓発を行ってまいります。 また、太陽光を利用して電力を生成する再生可能エネルギーシステムとして、太陽光発電につきましては、ゼロカーボンへの有力な手段でもありますので、白山手取川ジオパークの環境保全に配慮しつつ、国のガイドラインなどを参考に、適地を見極めまして設置を推進していきたいと考えております。
4	災害時、住民に情報を与え、誘導するのは町内会長。新しくできる防災センターからの災害情報を各町内会長にも届くようにしてほしい。	現在災害時に白山市が発令する避難指示、避難所の開設状況などの情報は、防災行政無線、メール、ＬＩＮＥ等でそれぞれお知らせをしておりますが、(仮称)防災センターとともに整備を進めております総合防災情報システムの整備後には、それらの情報を一括して、迅速かつ確実に市民の皆様にお伝えしてまいりたいと考えております。 そのため災害時に共助として重要な役割を果たしていただきます町内会や地区自主防災組織の皆様には、市からの情報について共有伝達のため、白山市のメール・ＬＩＮＥ等の登録を行ってくださいますよう、周知してまいりたいと考えています。

石川松任鉄道模型の会との意見交換会で寄せられた意見（令和6年9月協議）

No	石川松任鉄道模型の会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	J R 金沢総合車両所松任工場跡地について、一般市民が自由に使える多目的ホールや駐車場（フリーマーケットや子供会の行事などで利用できる施設）として整備してはどうか。（投票場所としても利用できればいい。） また、駅前に歩道橋を造り、多目的ホールと駅とを通路でつなぐのはどうか。	跡地の利活用策につきましては検討委員会を組織しており、市でビジョンを策定し、J R 西日本に提案することとしております。 ビジョン策定の際には、委員の意見のほか、各種団体からの要望も検討し、課題整理することとしておりますので、御提案の1つとして検討いたします。
2	J R 金沢総合車両所松任工場跡地について、旧松任町が寄附した土地であり、蒸気機関車をここに持ってきてもいい。鉄道遺産としても残してほしい。	跡地につきましては様々な可能性があるということから、このことも含め活用策を検討したいと思います。
3	加賀笠間駅について、トレインパーク白山へ行くルートがあり、めぐみ白山も含めたにぎわいを創出する拠点としての整備を北陸鉄道も含めて検討してはどうか。	市では広域的な観光産業振興の拠点としてトレインパーク白山を整備しました。加賀笠間駅は遠方からトレインパーク白山に来られる方の最寄り駅として交通の重要な所が主であります。 そのことから、トレインパーク白山に至る二次交通手段の確保も重要であり、その役割を担っている北陸鉄道とは今後も協調していきたいと考えているところであります。
4	松任と鶴来、美川と鶴来をつなぐ交通網の整備が課題ではないか。	御提案の松任地域や美川地域を鶴来地域と結ぶ交通の需要は現状それほど大きくないと認識しております。美川と鶴来を直接結ぶバス路線はございませんが、松任と鶴来を結ぶ路線としてめぐーや北鉄バスの鶴来線、白山線、三反田線がございます。 全国的にバス運転手不足というのが一番の課題となる中、現状の路線を維持していくということも重要な課題であると考えております。 また、それぞれの観光地を結ぶような路線につきましても、まずはその需要を見極めるのが必要であると考えております。

5	2027 年度に車両更新があるが、全て変えるのではなく、文化遺産として残すべきものは展示しながら伝えていってほしい。	旧車両を展示し、後世に伝えていくということは大切なことと考えますが、一方で、そのためには多額の維持管理費用が見込まれ、北陸鉄道は、鉄道としての存続に向け、みなし上下分離方式で県と沿線市町により支援を行う状況にあります。今は旅客輸送事業者として、本業の維持と利用者の利便性向上に経営の資源を集中していただきたいと考えているところであります。 なお、その中で現在検討を行っています北陸鉄道線の再構築実施計画の中には、鶴来駅に鉄道資料館を整備し、鉄道の観光資源化を図ることを盛り込む予定となっておりますので、更新された車両の部品等々を展示していただくということもいいかと考えております。
---	---	--